

南アルプス市立豊小学校後期自己評価書

令和3年1月22日（金）

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員自己評価・保護者アンケート及び児童対象アンケートの実施（12月）
- (2) 自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議及び学年会議にて状況分析と改善方策の検討（1月8日）
- (3) 学校関係者評価委員による自己評価書の検討（1月22日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標について

学校教育目標についての2項目に関しては、平均値が3.9と非常に高く、達成できたと考えられる。また保護者アンケートの「学校の教育目標や教育方針を知っている」の項目に関しても、肯定的な意見が95%となっており、概ね達成できたと考えられる。校長が毎月発行する「梨の花」をはじめとし、ことあるごとに子どもたちの様子や学校経営に関する考え方を示したり、各学年・学級で出している学年通信・学級通信に学校教育目標を入れ込んだり、また昨年度から重点的に取り組んでいる学校ホームページ等において情報を発信したりしていることの成果であると考えられる。

これからも、教育目標や教育方針の周知を含め、保護者が本校の教育目標や教育方針を十分に理解し、互いに連携を図りながら子どもたちの成長を目指して取り組んでいく必要がある。

(2) 学校経営・組織について

概ね良好といえる結果である。他の項目と比べると、3の「校務分掌が適切に機能している」の項目がやや低い値となっているが、前期よりは改善されている。

本校の教育指導重点の一つである特別支援教育については、3人の特別支援教育コーディネーターを指名し、教職員間で共通理解を図りながら、様々な課題に対して早期対応、組織的できめ細かな支援ができるようになってきている。関係諸機関と連携しながらケース会議を実施しており、話し合いの時間は増えてしまっているが、教職員間のコミュニケーションが図られ、連帯感が高まっている。校長のリーダーシップの下、職員会議や生徒指導・校内研究会においても、全職員が、「自分のこととして」という意識で取り組んでいることが成果として現れていると考えられる。

子どもたちが学校生活を送っている中で課題のない学校はない。教職員一人ひとりが真摯に子どもたちと向き合うこと、また、問題を一人で抱え込むことのないよう、今後も各分掌を機能させ、職員が一丸となり問題の解決にあたっていくことが重要であると考えている。教職員間の和を大切に今後も組織づくりに取り組んでいく。

(3) 学習指導について

前期自己評価の課題であった「言語活動を取り入れた授業を行っているか」、「実践活動や体験活動を生かし、『考え議論する道徳』の授業を行っているか」、の2項目については、それぞれ大きく改善された。コロナ禍にあつて様々な活動が制限されてきたが、対話の必要性や実践活動、体験活動の大切さを再認識する中で、何を重視するのか、どこに時間をかけて指導するのか、ということ意識して教育活動に取り組んできた。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善や、教育活動の重点化と工夫がよい結果

に結びついてきている。

教材や教具（ICT機器活用も含む）を効果的に活用する授業の構築については、前期よりも若干であるが、低い評価となった。授業時間数の確保やICT機器の活用能力等に課題があったと考えられる。

現在、一人1台（児童）ノートパソコンと高速大容量の通信ネットワークを整備するといった教育のIT化への転換が急速に進められている。どのような場面でどのような機器を使うことが効果的・効率的な教育につながるのか等、機器の活用に関する実践研究を進めていくとともに、教師一人ひとりのスキルアップを図ることが喫緊の課題である。今後は、校内研修に位置付け、組織的・継続的な取組を行っていく。

（４）特別活動について

前期同様、新型コロナウイルスへの対応で児童会活動や学校行事が十分に行えない状況があった。しかしながら、学校行事の一つである秋季運動会（体育発表会）について、考え得る十分な感染症対策を施しながら実施することができた。種目数や開催時間を縮小しての開催であったが、児童や職員が精一杯取り組む姿に、保護者からもたくさんの高評価をいただいた。

児童会活動については、「ONE TEAM」という児童会テーマのもと、児童会本部の児童を中心にTEAMのスペルを頭文字として、「T：友達いっぱい豊の子活動」「E：いいね！ピカピカ豊の子活動」「A：明るいあいさつ豊の子活動」「M：みんなで応援豊の子活動」という4つを柱に活動を行ってきている。全校で行う集会活動については、感染症対策を優先し、実施を見合わせるが多かったが、児童の主体性を大切にしながら取り組み方を工夫し、活動を進めてきた。

「A」に位置づけられた「明るいあいさつ豊の子活動」では児童会本部、6年生児童が中心となり、登校してくる児童一人ひとりに丁寧に挨拶する取組を行っている。また「M」に位置づけられたリサイクル活動・ボランティア活動については、学年を単位に取り組んでいる。3年生はエコキャップ回収、4年生はアルミ缶回収、5年生はベルマーク収集、6年生は牛乳パック・なんでも紙回収と、継続的に活動を行っている。ボランティア委員会は、米やタオルを集めた。タオルは高齢者施設に贈ったところ、感謝の気持ちとして花が届いた。児童の意欲を高めるとともに、成就感や満足感につながる活動となっている。

今後も学校行事や児童会活動を通して、どのような資質・能力の育成を図るのかを明確にするとともに、評価をしながら教育活動の充実を図り、児童の確実な成長につなげていきたい。

（５）生徒指導・生活指導について

それぞれの項目において良好な結果となっている。教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係を育てるための取組「あやめっ子タイム」をはじめ、「相互に認めある学級集団づくり」や「個々のニーズに応じた指導の工夫」などに教職員が一丸となって取り組んできた結果であると思われる。本校児童の課題の一つとして、自己肯定感の低いことがあげられるが、人間関係を構築し、児童一人ひとりの居場所や活躍の場所をつくっていくことが、課題解決につながっていく。また、それが、不登校の未然防止にもつながると考えている。

「問題行動の早期発見・早期対応に努めている」等についても、全教職員が意識的に取り組んでいる。いじめに対する早期発見、早期対応を図るため、「豊小学校いじめ防止基本方針」について全職員で確認し合うとともに、スクールカウンセラーをメンバーに加え、いじめ対策委員会を行ってきた。

また、新たな教育課題となっているSNSやオンラインゲーム上でのトラブルに関しては、

山梨県立北病院から講師を招聘し、PTAで学習する機会を設けた。学校保健委員会と豊地区教育を語る会との合同開催という形で行い、主任看護師より「ネット・ゲームのよりよい使い方」と題し、講演をいただいた。参加した保護者からは、「現時点であまり関係ない話題かなと思いながら参加しました。しかし、話を聞いていくうちに、うちにもいずれ起こるかもしれないと感じました。」「子どものゲーム時間が長く、依存症が心配されましたが、今日参加したことで、依存とはどういうことかよく理解できました。」などの感想が寄せられ、ネット依存やゲーム障害について考える有意義な機会となった。児童に対しても、学年ごとに指導を行っているが、今後も学校と家庭、地域で連携し対策を講じていく必要性を感じている。今後も三者が一体となった取組が行えるよう体制を整え、取組を進めていく。

(6) PTA・地域社会との連携について

学級経営・学年経営をするにあたって保護者との信頼関係を築くことは、とても大切なことである。職員アンケートの「PTA・地域社会との連携」の項目は、前期とほぼ同様の結果となった。また、保護者アンケートの「PTA・連携」の3項目の結果では肯定的な意見が多く、連携が図れていることが伺えた。

今年度については、1・2学期の段階で授業参観を実施するができず、保護者が子どもたちの様子を参観する場を設けることができなかった。そのため、「不十分」との回答もあったが、3学期は、感染症対策を講じながら学年ごとに授業参観を実施していく。楡形地区には4校の小学校があるが、3校の教室にはオープンスペースがあり、教室の広さに余裕がある。一方、本校の教室には、保護者を入れるスペースがないことから、授業参観を行えない理由があった。保護者に説明して理解を得たり、教育活動を開放する方法を工夫したりしていく。

今後も、学校便りや学年便り、ホームページ等、あらゆる発信手段を有効に活用していくことが必要であると考えている。

(7) その他

新型コロナウイルスへの対応に関しては、担当の職員を中心に対処策を検討し、全職員で共通理解を図ってきた。また、医療関係者の援助や助言を受けながら指導資料を作成し、家庭の理解や協力を得ながら取り組んできた。これらが、すべての項目のポイントが上がった大きな要因であると考えている。

小中一貫に向けた取組に関しては、「あいさつ」や「整理・整頓」の励行といった基本的な生活習慣を習得させる活動に加え、曾山和彦氏の提唱する「Simple」プログラムの取組をスタートさせた。本校においては、曾山氏を講師として招聘し、理論や方法を学びながら、業前の時間「あやめっこタイム」に位置付け、活動を行っている。簡単な活動の中に、自分の考えをまとめたり、友達に伝えたり、友達に尋ねたりといった、人と関わる上で必要となる要素が含まれており、ソーシャルスキルをはぐくむ取組となっている。また、互いの考えを尊重し合うことを基本とし、思いやりの心の育成にもつながっている。

互いに理解し合い、認め合う人間関係は学校生活の基本であり、授業においても有効に働いてくる。子どもたちが自分の居場所を見つけ、明るく楽しい学校生活を実現させることができるよう、今後も取組を継続していきたい。